

2017 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：薬剤情報リテラシー教育研究会

設置期間：2017年4月～2021年3月

代表幹事の氏名・所属：池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

幹事の氏名・所属：

岡橋 孝侍	京都第二赤十字病院	(JAMI 評議員)
木下 元一	名古屋第二赤十字病院	(JAMI 評議員)
小枝 伸行	八尾市立病院	(JAMI 評議員)
関谷 泰明	岐阜県総合医療センター	(JAMI 評議員)

活動成果の概要：

本年は、本課題研究の活動初年度として、講演会・学会シンポジウムでの薬剤関連の情報提供、課題の提示ならびに情報共有を行った。

1. 日本医療情報学会関西支部会での講演

2017年9月9日（土）、日本医療情報学会関西支部会学術講演会にて「薬剤部門システムの今。これから。」を開催した。141名の参加者とともに以下の内容の講演ならびにディスカッションを行った。

第一部 「知ってほしい薬剤部門システム」

1) 小野 聡（ベリタス病院 薬剤科）

薬剤部門システムの現状「調剤って、こんな感じです。」

2) 中西 寛子（神戸市立医療センター中央市民病院）

看護師が知りたい薬剤部門システム

看護師の立場で薬剤を実施する立場から「薬剤実施するときに使うシステム」

3) 武田 理宏（大阪大学）

医師が知りたい薬剤部門システム

「医師の目線、システム管理者の目線から薬剤部門システムに期待すること」

第二部 特別講演

金子 周司（京都大学大学院薬学研究科・生体機能解析学分野）

「ライフサイエンス辞書からクリニカルインフォマティクスへ」

第三部 ディスカッション・全体質疑

座長：岡橋 孝侍（京都第二赤十字病院）

池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

2. 第37回医療情報学連合大会での薬剤関連シンポジウムの開催

2017年11月20日から23日に大阪で開催された第37回医療情報学連合大会において、薬剤領域の最近の話題として11月21日（火）に「処方せん・医薬品をめぐる最近の話題」として、平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「内服薬処方せんの記載方法標準化の普及状況に関する研究」の報告ならびに薬剤部門システムの対応状況を各調剤機器ベンダーより報告した。

「処方せん・医薬品をめぐる最近の話題」

オーガナイザー：池田 和之（奈良県立医科大学附属病院）

土屋 文人（日本病院薬剤師会）

下邨 雅一（保健医療福祉情報システム工業会）

「内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討報告書」への HIS ベンダーの対応状況及び処方せんをめぐる最近の話題

土屋 文人（国際医療福祉大学／日本病院薬剤師会）

1 回量入力 ～調剤機器ベンダーが果たすべき役割～

星野 修久（トーショー）

1 回量処方への対応について

松裏 研一（インフォコム）

「内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討報告書」に対する対応状況と今後のあり方

橋本 陽子（タカゾノ）

3. 日本薬学会での情報リテラシーシンポジウムの開催

2018年3月25日から28日に金沢で開催された日本薬学会において、薬学領域における医療情報関連の教育環境と医療現場での薬剤関の医療情報環境との現状を共有し今後の課題を検討するため、3月26日（月）「薬学教育における医療情報リテラシーを考える」と題し、シンポジウムを開催した。

「薬学教育における医療情報リテラシーを考える」

オーガナイザー：杏林大学病院 若林 進

八尾市立病院 小枝 伸行

薬学教育における ICT リテラシー教育への期待

九州保健福祉大学薬学部 ○下堂 権洋

医療情報システムはどのように薬剤業務に活用されているか？

奈良県立医科大学附属病院 ○池田 和之
他学部への薬剤情報システム教育からみた薬学への適用
北海道厚生連帯広厚生病院 ○佐藤 弘康
医療情報が二次的活用される時代の情報リテラシー
九州大病院メディカルインフォメーションセンター
○高田 敦史、山下 貴範、原田 慶一、若田 好史、中島 直樹
MID-NET を薬学にどのように活かすか
医薬品医療機器総合機構 ○山口 光峰

活動成果の発表：

[学会発表] 計（ 1 ）件

[その他] 計（ 2 ）件